



今日のことば

「ひとりして無力だと思つのか」

あつよ

ひとりごぼはひとりぶん

力が

ラッパ E C D

私たちは時に、自分の小ささに立ちすくみ「自分は無力だ」と嘆いてしまうことがあります。大きな時代の流れや、思い通りにならない現実を前に、自らの力の限界を感じてしまうからでしょう。けれど浄土真宗の教えが照らすのは、その「無力さ」という自覚を抱えたままの私たちが、実は大きな慈悲の中にまると包まれ、生かされていくという真実です。自分の計らい（自力）だ

けで全てを成し遂げようと力めば、いつか必ず壁に突き当たり、心は折れてしまいます。しかし、「ひとりには、ひとりぶんの力が備わっている」という言葉は、阿弥陀様から「あなたにしかできない、あなたに相応しい歩みが必ずあるのだよ」と呼びかけられている、温かな励ましに他なりません。日々の食事を丁寧に整え、場を清め、誰かの言葉に静かに耳を傾ける。



そんな「ひとりぶん」のささやかな営みの中にこそ、目に見えない大きな働き（他力）が満ち溢れています。その一歩は、たとえ小さく見えても、広大な他力の海に支えられた、決して揺らぐことのない尊い一歩なのです。「自分一人で頑張らねば」という気負いを手放し、大きな慈悲に身を委ねたとき、不思議と「もう一歩、歩んでみよう」という静かな力が内側から湧いてくるものです。今日もまた、与えられた「ひとりぶん」の命を、光に照らされながら、精一杯に、そして安らかに。

# 修 嚴 会 経 堂 祠

日時 6月14日(日) ~ 15日(月)

いずれも午前9時30分より4時まで

14日のお昼には尼講によりオトキ(昼食)の接待があり

15日のお昼にはお寺でオトキをお出しさせていただきます。

お説教は高岡市長敬寺信行寺住職 梨谷 真嗣さんがされます

祠堂受付中

常入寺では亡き人を偲びお寺の維持や仏教が広まることを目的とした寄付を祠堂といいますが、身内が亡くなられたことを縁としてされることが多いです。いつすればよいのですかと聞かれることがありますが、寄付ですのでしなればいけないこともありませんし、いつということも決まっています。思い立ちただければよろしいです。また金額も決まっています。お気軽にお入れください。祠堂しようというお気持ちがお寺にとってこの上ない喜びです。常入寺では祠堂を頂いた方々に祠堂のお勤めを祠堂経会の初日にまとめてさせていただきます。今年も祠堂経会の時に出るのだから早くお申し出ください。準備の都合上、祠堂経会の当日祠堂にたいてもお勤めできないこともございます。事ご了承下さい。

同居されているかたがおられるのならば、できますれば皆さんでお読みください

# 御文をいただく 其の七十三 五帳目第十通④

聖人 一流の御勸化のをもむきは信心をもて  
 本とせられ候 そのゆへはもろもろの雑  
 行をなげすてて一心に弥陀に帰命すれば  
 不可思議の願力として 仏のかたより往  
 生は治定せしめたまふ そのくらいを一  
 念発起入正定之聚とも釈し そのうへの  
 称名念仏は如来わが往生をさだめたまい  
 し御恩報尽の念仏と ころうべきなり あ  
 なかして あなかして

## 弥陀の約束を杖として 歩む人生

「一念発起入正定聚」この言葉を紐解くと、阿弥陀の救いを信じたその一瞬（一念）に、間違いな

く仏になれる仲間（正定聚）に加わる、という意味になります。かつての仏教では、厳しい修行を終えて死んだ後によく救われるといふ考えが一般的でしたが、親鸞聖人は、信じたその時に人生のゴールが約

束されると説かれました。しかし、私たちは現実にはいま仏になったわけではありませぬ。煩惱を抱えたまま、迷いの中を生きる身です。だからこそ、救いを「完了したもの」として言い切るのではなく、阿弥陀仏から「必ず救う、決して見捨てない」という約束を今ここで受け取ったのだと捉えてみてください。それは、人生という険しい道のりを歩むための「折れない杖」を授かるようなものです。たとえ足元が火の河、水の河に挟まれた、危うい「白道」であったとしても、その杖さえあれば私たちはひとりではありませぬ。私たちは、自分の力だけで人生を切り拓こうとするとき、どうしても行き詰まりや孤独を感じてしまします。しかし、帰るべき浄土という目的地が約束されているという事実、私たちの生き方に決定的な安心感をもたらします。出口の見えない暗闇

をさまよい続ける不安から解放され、約束された未来を信じて今を生きる勇気が湧いてくるのです。弥陀に救われるという約束を杖として、この世を強く歩んでゆける。その杖があるからこそ、私たちはたとえ転んでもまた立ち上がり、一度きりの人生を自分の足で踏みしめていくことができるのです。この約束を胸に、今日という一日を力強く歩ませてくださいませしよう。



【あとがき】桜の花も散り、梨の花も散り、春も終わりを迎えようとしていますね。それどころか5月には立夏を迎えます。ですから5月は暦の上では夏なんです。雑草の元気が目にとまる食といつても良いのかもかもしれませんね。当寺においても6月になれば祠堂経会が勤まります。以前は7月に勤めていた記憶があります。6月に早めた記憶があります。5月からそろそろ祠堂経会の準備にかからないと間に合わなくなりそうです。年々準備に時間がかかるようになってきました。皆様方もそろそろ暑さの準備を整え始めなければならぬときかもしれませんね。よろしければ6月の祠堂経会に是非ともお参りください。予定に入れておいてください。お願いいたします。

発行 真宗大谷派 常入寺  
 電話 930-0161 富山市東老田787  
 住職携帯 (076) 436-0816  
 発行責任 青井和成  
 LINEはこちらから↓  
 お参りの変更  
 法事の相談  
 その他  
 ちろちろからでも大丈夫です

